

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

2012年度 児童保護募金(誕生日記念募金)による活動報告

募金件数:9,944件(内訳 児童保護募金3,386件、誕生日記念募金6,558件)

総募金額:73,281,309円(内訳 児童保護募金30,696,794円、誕生日記念募金42,584,515円)

対象期間:2011年10月1日~2012年9月30日

※児童保護募金と誕生日記念募金の両方により、以下に記載の活動が行われました

※誕生日記念募金は、チャイルド・スポンサーの皆さまにご支援いただいているチャイルドの誕生日を記念して、お願いしている募金です

皆さまからいただきました児童保護募金(誕生日記念募金)により、アフリカやアジアで、感染症や児童労働などにより健やかな成長が阻まれている子どもたちの支援を行うことができました。感謝とともに、ご報告いたします。



スワジランド エイズ遺児など立場の弱い子どもたちへの食糧支援

支援地域の状況

スワジランドは、HIV/エイズの感染率が世界で最も高い国です。成人の4分の1が感染し、子ども(18歳未満)の人口の約18%にあたる10万人が、遺児もしくは保護者のHIV感染などにより必要な保護を受けることができません。子どもたちは、十分な食糧も得られず、深刻な栄養不良となっています。国の調査(2010年)によると地域によっては、5歳未満の子どもの半数が正常な発育に支障をきたしているといわれています。

遺児となった子どもたちは、食べ物を手に入れるために物乞いをしたり、児童労働を強いられたり、身体的、精神的、性的な搾取や虐待の危険性があります。



子どもたちが日中安全に過ごし、栄養のある食事の支援を受けるNCPの1つ(スワジランド)

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

活動は、「近隣ケア・ポイント(以下NCP=Neighbourhood Care Point)」と呼ばれる場所で行われました。NCPは、子どもたちをケアするための場所をいい、そのための建物があるところもありますが、多くの場合が野原の一角やほかの施設を借りて行われています。

ワールド・ビジョン・ジャパン(以下、WVJ)は、遺児など弱い立場にある子どもたちが栄養価の高い食事をとることができるように、次のような支援を行いました。

● 温かい食事の提供

地域のリーダーやボランティアとともに、全国にあるNCP 1,747カ所を支援拠点として選び、トウモロコシの粉、豆、トウモロコシと大豆の粉の混合および食用油など栄養価の高い食糧合計約130万トンをお届けしました。食糧のトラックからの荷お



NCPで支援を受ける子どもたち(スワジランド)

ろし、食糧の保管・管理はボランティアにより行われました。

次に、約45,000人(男女ほぼ半数ずつ)の子どもたちを対象に、子どもたちが日中安全に過ごせる場所を提供するとともに、子どもたちの栄養改善に貢献する温かい食事を支援しました。食事は、子どもたちの世話をするボランティア約5,800人に対しても支給されました。

●地域ボランティアを対象とした能力育成研修

ボランティア約6,500人に、とくに支援を必要としている子どもたちの登録、NCPにおける食糧の保管・管理について指導しました。また、とくに意識の高いボランティア約5,800人を対象に、さらに細かい食糧管理の方法、子どもたちの出席管理、適切な調理などの研修を行いました。これにより、事業終了後も地域の人びとの手で、子どもたちへの支援が可能となりました。

ワールド・ビジョン（以下、WV）は、世界エイズ・結核・マラリア対策基金（世界基金）、スワジランド政府HIV/エイズ緊急対策評議会と協力して、事業を実施しました。NCPでは、調

理が衛生的に行われているか、農村保健衛生普及員の巡回訪問を受け、適切に管理が行われていることが確認されました。



ボランティアとNCPに届いた食糧（スワジランド）

担当スタッフのコメント：伊藤真理スタッフ

スワジランドでは、18歳以下の子どもたち約13万人が遺児など弱い立場にある子どもたちであるといわれています。NCPを訪れた時に、子どもたちや地域の置かれている状況の深刻さを目の当たりにしました。経済的に困難な状況の中にあるにもかかわらず、地域の弱い立場にある子どもたちをケアしている地域のボランティアの人々に出会い、背筋が伸びる思いでした。

南スーダン マラリア感染の危機にある子どもたちや妊婦への予防、啓発を中心とした支援

支援地域の状況

南スーダン共和国（以下、南スーダン）では、5歳未満の子どもたちの死亡率が1,000人当たり135人で、栄養不良、マラリア、呼吸器疾患、下痢が主要死因となっています。保健省や国連、NGOなどの人道支援機関はとくにマラリアの蔓延をくいとめるために、予防対策に力を入れてきました。しかし、南スーダンは独立後1年半経った現在も、内戦により医療施設が破壊された

まま、総人口826万人（2008年）に対し、機能している施設の数約1,300カ所（6,300人に1施設）に過ぎず、人口の70%以上の人々が医療施設を利用できません。住民にマラリアの予防や治療についての知識が欠けていることも、病気の蔓延の一因となっています。

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

マラリアは、予防と治療が可能な病気です。コミュニティの人々がマラリアについての正しい知識を身につけ、防虫効果のある蚊帳を利用すれば、感染を劇的に減らすことができます。とくに抵抗力が弱くマラリアに感染しやすい妊婦や、5歳未満の子どもたちの感染防止が、急務となっています。

WVJは、南スーダン、ワラップ州で、世界基金と連携して、ワラップ州や郡・地区の自治体の保健担当者と協力しながら、マラリア感染予防のために次のような活動を実施しました。

●防虫処理をほどこした蚊帳の配布

WVJは防虫蚊帳の使用促進キャンペーンを行い、ワラップ州6郡で、約57万帳の蚊帳を約18万世帯に配布しました。その効果による感染率の減少が期待されています。

●蚊帳の配布および感染防止啓発のためのボランティア育成

感染防止のために、地域住民とくに妊婦や子どもたちを対象に防虫蚊帳を使用することの大切さについて啓発を行いました。実際に配布や啓発を行うボランティア1,831人（配布ボランテ

実際に配布や啓発を行うボランティア1,831人（配布ボランティア1,474人、啓発ボランティア315人、監督するボランティア42人）に対し、必要な技術や知識の研修を実施しました。ボランティアが力をつけることで、事業終了後も継続して広く啓発を行うことが可能となりました。

支援を受けたアルエットさんの話



支援を受けたアルエットさん

アルエットさん一家は9人家族で、7人が子どもです。支援の前、家族は常に蚊に襲われ、とくに大量発生する雨季の被害は大変でした。子どもたちはいつも病気がちで、治療費は家計を大きく圧迫していました。しかし蚊帳の支給を受けて以来、すでに3カ月間、子どもたちはマラリアにかかっていません。「WVにとっても感謝しています」とアルエットさんは言います。



支援地域の状況

インドの南端に位置するタミルナード州のヴェロレ郡グディヤットンという町に、児童労働で苦しむ子どもが多くいます。2011年のWVの調査によると、子どもの人口の約5%に相当する約800人の子ども（男子約450人、女子約350人）が児童労働を強いられ、学校に通うことができていませんでした。子どもたちは、生計を助けるためにマッチ、皮革、レンガなどの

製造業や建築業、ホテル業などで働かされていました。

児童労働の問題は、慢性的な貧困だけではなく教育の質の低さ、両親の教育に対する意識の低さ、子どもの権利保護の法的制度の欠如といった様々な要因が複雑に絡み合っているため、分野にとらわれない総合的支援が求められていました。

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

WVJは、グディヤットンにある48村において、児童労働に従事していた、あるいはその被害にあう可能性のある子どもたちと家族を対象に、地方政府や住民組織、学校、民間金融機関などとネットワークを構築し、児童労働防止のために次のような支援を行いました。

●教育支援

保護者が教育費を払えないために、子どもたちが学校に通えず、児童労働に従事するというケースがあります。その可能性の高い子どもたち420人を対象に授業料や教科書、文房具などを支給し、補習授業を行うことできちんと学校に戻ることができるように支援しました。また、教員が足りない学校には、雇って派遣することで教員の充実を図りました。

●啓発活動

グディヤットンの議員や自治体の長を招いて児童労働に反対する啓発キャンペーンを行い、地域の子どもたち約1,000人も参加しました。このキャンペーンには児童労働を経験した子ども2人も参加しました。また、グディヤットン法律家協会の協力を得て、裁判官や弁護士などが、一般市民約350人に対し、政府による児童労働問題への法的支援について解説する時を設けました。これらにより、児童労働をなくすための基盤となる、人々の意識の向上に貢献しました。

●自助グループへの経済開発支援

自助グループとは、児童労働経験者など同じ境遇にある人々による問題解決を行うための自主的な集まりをいいます。69の自助グループに対し、帳簿のつけ方などの能力強化の研修を行いました。また別の66のグループに対しては、地方政府や民間金融機関との関係強化を支援した結果、自助グループのメンバー



自助グループを通してミシンを支給され、収入が向上した女性

児童労働の犠牲から救われた少女エラバラシさん

グディヤットンで暮らすエラバラシさん(16歳)は、貧しい家族の長女です。4年生の時、お父さんが事故で働けなくなり、お母さんだけでは家計を支えることができず、学校を中断して働かざるを得なくなりました。エラバラシさんは、3年間、近くのマッチ工場で働きました。「毎日、友だちが学校に通うのを、涙をこらえながら見ていました」と当時を振り返ります。グディヤットンは、児童労働に従事する子どもたちが多くことで知られており、多くの子どもたちが、粉塵が舞うなど環境の悪い工場で働かされていました。

ある日、WVの支援で組織された自助グループの女性が、家庭を訪れ、エラバラシさんに学校に戻るよう強く勧めました。しかしエラバラシさんは「私が働くのをやめたら、誰が家族を助けるの？学校をやめて3年経っているので授業についていけないでしょう」と言いました。

エラバラシさんは、WVの勧めで、かつて児童労働に従事していた子どもたち自身が教育により希望を見出した体験を語る機会に接し、心を動かされました。その後、3年間の空白を埋めるためにWVが運営する「補習授業」に参加し、1年後、正規の学校に戻ることができました。

WVは、子どもたちにとって、教育だけでなく、健全な家庭環境が必要だと考えています。自助グループの活動への支援を通して、必要な収入を持続するための手段も提供しています。エラバラシさんは、WVの支援によって人生に新しい道を見出したたくさんの子どものうちの1人です。かつて、劣悪な環境で働かされた子どもたちは、今、明るい夢を持って学校に通っています。



コンピューターの授業を受けるエラバラシさん

が小規模なビジネスを開始するために必要な融資を受けることが可能となりました。

さらに、自助グループメンバーのうち最も経済の困窮が深刻な33世帯に対し、ヤギやミシンを支給し、小さな露店を始めるための支援を行いました。

●青年たちへの経済的自立支援

児童労働を経験した若者たちが経済的に自立できるように支援しました。17歳以上の青年87人を対象に、各人の関心分野を尊重

しつつ、社会で求められている職種にも配慮し、印刷、携帯電話の修理、裁縫などといった職業に必要な技術を身につけるための職業訓練を行いました。

インド 第5の都市ハイデラバードでの、HIV/エイズの影響下にある子どもたちへの支援

支援地域の状況

インドには現在約240万人がHIVに感染しているといわれ、その2割以上が南東部のアンドラプラデシュ州に住んでいます。その州都ハイデラバードはインド第5の都市で、近年、情報技術産業などの拠点として急速に発展しました。その一方、ビル建設などに従事する出稼ぎ労働者がつくるスラムでは、HIV感染の危険性が高くなる傾向にあります。国や州による

HIV/エイズ予防やケアなどの支援が行われていますが、自分自身や家族がHIVに感染している子どもたち、性的搾取の対象となりやすい危険な児童労働に従事する子どもたち、ストリートチルドレン、親をなくした子どもたちなど子どもを対象とした支援は不十分です。

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

これらのHIV/エイズとともに生きる人々や子どもたち、弱い立場に置かれている子どもたちとその家族のために、次のような支援を行うことができました。

●感染の有無を知るためのHIV検査とカウンセリング

地域の医療機関やほかのNGOと協力して、子どもたち306人とその家族を対象にカウンセリングサービスを実施し、うち29人が自発的にHIV検査を受けました。人々がHIV/エイズに対し、恐れずに対応することができるようになれば、感染が判明した場合でも、適切に対処することが可能となります。

●HIV感染者、感染者を家族に持つ人々への支援

感染した約620人に、治療（抗レトロウイルス療法）を受けることができる施設や栄養補助剤を配布している団体を紹介し、適切なケアを受けられるようにアドバイスを行いました。

また、対象の家庭の多くが、働き手の不在などにより収入が乏しいために、栄養価の高い食事を摂れませんでした。これらの人々に、現地で調達可能な食材で費用をかけずにバランスのとれた料理を作る方法など栄養管理について指導し、栄養改善に貢献しました。さらに、23人を対象に、1人100US\$（約9,000円）以内でミシンや美容院用の道具、野菜販売のための手押し車などを支給することで、収入向上に貢献しました。

●子どもたちへの精神的なケアの支援

HIVに感染した子どもや、感染した家族を持つ子ども355人に対し、在宅あるいはドロップ・イン・センター（支援を必要としている人々が気軽に立ち寄ることができるコミュニティセンター）で、精神的なケアを行い、自身や家族の健康に関する不安、差別への恐怖、将来の不安など子どもたちが心の中にかかえていた気持ちを外に表現できるようにサポートしました。

精神的サポートの一環として、地域の学校と協力して、思春期の男女243人を対象に、HIV/エイズの予防を含むライフ・スキルの教育を行いました。

※ライフ・スキルとは、日常の様々な問題や要求に対し、より建設的かつ効果的に対処するために必要な能力のことを言います（世界保健機構（WHO）による定義）。



支給されたミシンにより、収入を向上させることができました



家族が支援により野菜の販売を始め、子どもたちが学校に通えるようになりました

【お詫びと訂正】

2013年2月に、ご支援者の皆さまにお送りいたしました「2012年度 児童保護募金（誕生日記念募金）による活動報告」に記載してある募金額に誤りがありました。お詫びとともに訂正いたします。申し訳ございませんでした。

〈正〉総募金額：73,281,309円（内訳 児童保護募金30,696,794円、誕生日記念募金42,584,515円）

〈誤〉総募金額：73,296,309円（内訳 児童保護募金30,706,794円、誕生日記念募金42,589,515円）

●募金についての問い合わせ先 特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F

TEL:03-5334-5351 FAX:03-5334-5359

Email:dservice@worldvision.or.jp

<http://www.worldvision.jp>

ワールド・ビジョンは、キリスト教精神に基づいて開発援助、緊急人道支援、アドボカシー（政府や市民への働きかけ）を行う国際NGOです